

2018年12月期 第2四半期 決算説明会における主な質疑応答内容
(2018年8月6日開催 於：東京)

<自動車計測事業>

Q：排ガスビジネスの下期予想は前年同期比で増収減益となるが、その要因は？

A：中国・インドを中心としたアジア向けの案件が増加し、収益性が低下すると予想している。

Q：欧州では新排ガス規制（WLTP）の全車種への適用対応に苦慮していると聞かすが、排ガスビジネスへの影響はあるか？

A：自動車メーカーや協業する部品メーカーが規制対応に向けて投資を加速させる可能性があり、当社にとってもビジネス拡大のチャンスがあると考えている。

Q：今後更に排ガスビジネスの需要が高まった場合、供給面での課題はあるか？

A：エンジン排ガス測定装置を生産しているHORIBA BIWAKO E-HARBORでは協力会社との連携強化により生産性を高め続けており、現時点ではキャパシティに余力を持っている。

Q：MCT（自動車計測機器）ビジネスの上期業績は前年同期比で減収減益となっているがその要因は？

A：排ガスビジネスと同様にインド・中国・韓国を中心としたアジア向けが増えており、収益性が低下したため。一方で旺盛な需要環境から受注・受注残ともに前年同期よりも大きく伸張している。

<環境・プロセス/医用事業>

Q：上期の業績は計画に対して上振れたが、下期に向けてのリスクはあるか？

A：環境・プロセス事業においては、上期は国内向け、下期は海外向けの売上が主となる。案件管理を徹底し、確実なデリバリーに努める。医用事業においては、国内での血球計数装置の競争激化リスクや、海外での新製品投入による販売促進用の増加を想定している。

<半導体事業>

Q：前回予想時(5/9)と比較して、どのような環境変化が起こったか？

A：6月頃を境にして半導体メーカーの投資が一時的にスローダウンしたと認識している。一方で需要自体は底堅いものがあり、中長期的な市場の成長は継続していくと考えている。

Q：発注キャンセルや在庫の積み上がりといったことはあるのか？

A：過去のシリコンサイクルの際に起こったような問題は発生していない。

Q：マスフローコントローラーの下期にかけての生産状況は？

A：半導体メーカーの一時的な投資抑制による影響はあるものの、年末にかけて回復していくと考えている。

Q：下期の業績を第3四半期と第4四半期に分けて考えると、どのような推移になるか？

A：半導体メーカーの投資抑制の影響を受ける第3四半期は多少落ち込むものの、第4四半期には業績が回復すると見通している。

Q：HORIBAのマスフローコントローラーのシェアは今後どのように推移していくか？

A：フラッシュメモリーを中心とした中長期的な投資増加や技術の進展が、さらなるシェア拡大のチャンスであると考えている。

Q：マスフローコントローラーのリードタイムに変化はあるか？

A：上期においては高水準な受注を背景として一部でリードタイムが長くなるものもあったが、足元では平常の状態に戻っている。

以上